

第 51 回衆議院議員総選挙結果に対する見解

JR東労組は、第 51 回衆議院議員総選挙において、高市政権の暴走を止めることを主眼に置き、JR東労組が掲げる政策に賛同する候補者と共にたたかい抜いてきた。ご協力をいただいた組合員・家族・OB会の仲間の皆さんに感謝を申し上げます。

選挙結果は、自由民主党が 316 議席という戦後最多議席を獲得し、圧倒的多数をもって政権基盤を確立した。一方、選挙直前に結成された中道改革連合は 49 議席にとどまり、私たちが推薦し、連帯してきた多くの議員が議席を失う結果となった。組合員からは「こんなに自民党が勝つとは思わなかった」との意見が寄せられているが、私たちはこの結果に対し、傍観者でいるわけにはいかない。

10 月に発足した高市政権は、台湾有事発言に象徴される近隣諸国との緊張関係の激化、武器輸出の全面解禁、防衛費 9 兆円規模への拡大、核保有を巡る発言、スパイ防止法の法制化、さらには労働時間規制の緩和等、個人の権利や市民・労働者の生活を脅かしかねない法案や政策を次々に打ち出してきた。

中道改革連合は、立憲民主党がこれまで掲げてきた辺野古新基地反対や原発ゼロ政策、さらには安全保障をめぐる立場を後退させる姿勢を示した。その結果、戦争施策や権力集中型の政治に対する明確な対抗姿勢を有権者に示すことができず、結果として、与党優位の構図を補完し、右傾化する高市政権の暴走を止めるに至らなかった。

自民党が衆議院定数 3 分の 2 以上の議席を獲得した今回の選挙結果は、単なる議席の増にとどまるものではない。衆議院を通過した法案が参議院で否決されても、衆議院で 3 分の 2 以上の賛成で再可決することができるようになった。つまり自民党はどのような法案も成立させることができるのである。さらに言えば、参議院でも改憲派が 3 分の 2 の議席を占めれば、憲法改正の発議が可能となるのである。まさに歴史の転換点を迎えている。

高市政権は、自民党の大勝を受け、「国論を二分する政策に挑戦する」とし、憲法改正や個人の尊厳が侵害されるおそれのあるスパイ防止法、安全保障政策の抜本的な見直しに着手することを公言した。国民を分断し、統制を強化し、軍拡や戦争のできる国へとひた走ろうとしている。まさにファシズムの到来である。

私たちは、今選挙戦で培った高市政権の暴走を止めるための連帯を深めることを通じて、戦争施策に反対し、国家を優先して個人の権利や生活を犠牲にする政治と対決し、真に市民・労働者の生活と雇用を守る政治勢力を創り出していかなければならない。

また、1938 年、戦時体制下において、戦争に協力するために労働組合が解散させられ、「産業報国会」として戦争に協力させられた過去を忘れてはならない。二度と悲惨な戦争を繰り返さないために、今こそJR東労組が培ってきた「抵抗とヒューマニズム」の精神をもって、高市政権の暴走を止めるための広範な連帯のたたかいを創り出していかななくてはならない。

JR東労組は、職場からのたたかいを基礎に、推薦議員や 9 条連の仲間と共に、市民・労働者との連帯を強化し、平和・人権・民主主義を守り抜いていく。

平和なくして私たちの生活は守れない。今回の選挙結果を重く受け止め、思考停止することなく、平和で安心して暮らせる社会をめざし、職場から地域から連帯をつくり出すこと、そして直面する 2026JR総連春闘勝利に向け、たたかいを創り出していくことを明らかにし、JR東労組の第 51 回衆議院議員総選挙結果に対する見解とする。

2026 年 2 月 12 日
東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会